花と緑の銀行だより

190号 2014.1

作品名：「満開の頃」　撮影者：吉田　毅 氏　撮影場所：城山公園（小矢部市）

目次

・花と緑の提言〈「小矢部市の緑花活動について」（小矢部支店）〉…… 2
・活動事例〈「自家製造培養土で地域づくり花の街づくり」(富山支店)〉…… 3
・技術講座〈始めよう楽しい花壇作り4〉…… 4
・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑯〉…… 5
・技術講座〈ステップアップ研修に参加して〉…… 6
・この人あり〈「花づくりによる人との輪」(朝日支店)〉…… 7
・情報コーナー〈花とみどり・ふれあいフェア〉…… 7

小矢部市の緑花活動について

花と緑の銀行小矢部支店長
小矢部市長　**桜 井 森 夫**

新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

また日頃より、花と緑の推進に多大なるご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

小矢部支店では、皆様のご理解を頂きながら、現在、市内全地区に地方銀行頭取14名、グリーンキーパー209名の方が指導者としてご活躍いただいており、それぞれの地域の特性を生かした自主的な緑花活動が行われています。

クロスランドおやべの平成6年オープンを契機に積極的な活動をしてこられた松沢地方銀行は、県内コンクールで数多くの賞を受賞し、全国コンクールでの上位入賞を目指すまでになられました。また、市南部に位置する薮波地方銀行は、積極的に県内コンクールに参加され多くの賞を受賞してこられました。

小矢部支店を代表するこの地方銀行には、ともに花と緑で人々に元気と癒しを与えてあげたいという強い思いが、花壇づくりなどに表れているからこその受賞だと感じております。

また他の地方銀行でも、規模は小さいですがアイディアを出し合い、コンクールや花壇活動などへの積極的な参加により、市内の至る所に花と緑で溢れる花壇が見られるようになりました。この花と緑の豊かさが笑顔に繋がるのだと思います。

小矢部市はバラの生産量が県内一で、市ではバラの切り花を優れた特産品として「小矢部ブランド」に認定しており、その普及を推進するとともに、小矢部市の知名度アップに努めているところであります。

小矢部市では昨年の7月から11月までの間、「ウェルカムローズ」と銘打って、市庁舎やJR石動駅など市内4カ所にバラの切り花を飾り、訪れた人々の目を楽しませることができました。

今後とも、美しく豊かな自然に恵まれたこのふるさと富山が、さらに花と緑に囲まれ、潤いと安らぎに満ちた地域となるよう積極的に取り組んでまいりたいと存じます。皆様方の一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方の今後ますますのご健康、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のあいさつといたします。

自家製造培養土で地域づくり花の街づくり

社会福祉法人白皇山保護園
救護施設　八　尾　園
園長　**西 浦　博**

救護施設八尾園は、富山平野の南部に位置し、霊峰立山、剣岳が一望できる丘陵地に位置します。付近には中学校、高校、行政センター、八尾幹部交番、ハイテク産業の中核工業団地があり、花のまちづくり環境としては最適な環境です。現在200名の利用者が生活をしています。

救護施設八尾園が発足したのは、昭和32年、身体や知的、精神障害など様々な要因により単身で生活できない方々を保護し支援してまいりました。当時は地域の中で障害者が共に生活を営む事は非常に困難であり、今日のように地域の方に受け入れられるようになったのも、諸先輩方の地道な地域活動によるものです。

このように地域への理解、そして利用者自身の生活リズム、生きがいづくりを行うために、発足したのが作業活動でした。当施設には、ブロック作業、陶芸作業、園芸作業、室内作業の4種類の作業がありますが、どの作業も作業を通じて人の役に立ち、人に喜ばれることを実感できるよう配慮しており、たくさんの利用者がやりがいをもって作業に従事しています。

今回紹介する園芸班は、施設の設立以来、５６年の歴史を持つ作業であり、利用者の生きがいづくり、生活の場としての環境整備を行う目的で設立されました。現在では、徐々に活動の場を広げ、積極的に地域の方々とのふれあいを楽しみながら活動を展開しています。

園芸班で行う花いっぱい活動には主に3つの活動があります。①土作り②花壇づくり③地域活動です。

花づくりは土作りからとよく言われますが、園芸班では工夫をこらし、エコで地域の方に喜ばれる土作りを行っています。

神社や県道の街路樹にて、ケヤキの落葉を拾い集め、その落葉を使って腐葉土を作成します。さらに細かく粉砕した腐葉土と、精米をしたときに出る米ぬか、鶏糞、もみ殻燻炭、石灰等を混ぜて、培養土作りを行っています。特に、落葉拾いについては、地域の方々から大変感謝されています。この培養土はなかなか根張りも良く花壇作りには欠かせない物となっています。

次に私たちの自慢の花壇「八尾園ふれあい花壇」ですが、八尾園と育苗施設の間に位置する市道の沿線に設置しています。この花壇では、主にこぼれ種から発芽したものや宿根草を活用しています。移植したり、間引いたり、少々手間はかかりますが、コストを抑えながらも華やかな花壇が出来上がります。一年草に関しては、自家採取した種から発芽させ、育苗施設で育成します。このように育成した花苗は、地域の保育所や団体へも配布しています。昨年も鮮やかな花達が元気に咲き誇ってくれました。ぜひ、一度見に来ていただけると嬉しいです。

もうひとつの活動が地域活動です。公民館や消防署、保健福祉センター、八尾幹部交番等の公共施設に季節の花鉢を無償で届けて、月に数回見回り交換する活動の他、地域の保育所、小学校、花壇ボランティアの方々に無償でカンナの球根や自家栽培した花苗を配布する活動など様々な地域活動を行っています。地域のたくさんの方々に花づくりの楽しさや綺麗に花が咲いた時の喜びを感じていただこうと活動を行っています。

これらの活動が認められ、皇太子殿下がご臨席された“第22回全国「みどりの愛護」のつどい”の式典において、富山県を代表して「みどりの愛護」活動事例紹介をさせていただきました。さらに、活動事例紹介後に皇太子殿下より、お声をかけていただきました。これも、花のまちづくりに頑張ってくれた利用者並びに地域の方々のおかげと心より感謝しています。

これからも、私たち八尾園は、地域の皆さんとともに、花と緑の活動を通じて交流し、助け合って信頼を得、「地域とともに街づくり」を進めてまいりたいと思います。

四季別花壇作りのポイントについて

富山県花総合センター
次長　**金 森 松 夫**

これまで3回に分けて楽しい花壇作りをテーマとして、一般的な花壇の管理方法について述べてきました。今回は、重複することもありますが、四季別に花壇の管理作業について解説します。

１．春　―３月～５月―

秋に植え付けたパンジー、デージー等は雪解け直後、かなり衰弱した状態ですが、暖かくなるにつれ、次第に回復してきます。

３月中・下旬になると夏花壇の花の播種期になりますが、この時期はハウス等での播種・育苗管理となります。露地での播種は簡易トンネル等を活用した４月中旬以降が良いでしょう。

４月になるとチューリップ等の春の花が華やいで春のムードを一気に盛り上げてくれますが、花がら摘み等の手入れやアブラムシ、ウドンコ病等病害虫の早めの防除対策が重要です。

５月に入ると春の花がひと段落してくるので、サルビア、ビンカ、メランポジウム等夏の草花を播種します。また、オダマキ等の宿根草も播き時となります。さらに、カンナ、ダリア、グラジオラス等春植え球根も植え時を迎えます。

また、さし木で増やせる宿根草類は、４～５月がさし木の適期となります。

２．夏　―６月～８月―

６月に入ると気温が上昇するだけでなく、降雨が続いて湿度も高くなり、カビによる病気が多発します。多湿を避けるとともに、下葉取りや整枝により風通しを良くしてやると軽減できます。

この時期、生育中のコリウス、インパチェンス等の枝をさし木をすることにより容易に繁殖できます。

また、チューリップ・スイセン等の春の球根草花は地上部の茎葉が枯れてきますので、梅雨前に掘り上げ、秋まで涼しい場所で保存します。

梅雨明け以降は、気温が一段と上昇してきますので水管理に留意します。草花をしおれさせないよう根元まで水が行き渡るようにたっぷり潅水します。また、高温と乾燥を好むダニ、スリップスが多発し易い時期ですので、初期の駆除対策が大切になります。

夏の高温期には夏バテ気味の花も出てきます。こまめな花がら摘み、朝・夕の水管理、追肥等をタイムリーに実施したいものです。また、花期の長いサルビア、ベゴニア等は切り戻しをすると、秋に再びきれいな花を咲かせます。

３．秋　―９月～１１月―

９月はパンジー、デージー等秋播き１年草の播種時期です。各草花の播種時期を考慮しながら順次播いていきましょう。また、シャクヤク、シラン等の株分けは９月～10月が適期になります。株分けをしないと、花数が少なくなり、葉ばかり目立つようになります。

10月に入ると春植え球根の掘り取り時期になりますが、春を彩ってくれるチューリップ等の秋植え球根の植え付け期を迎えます。また、多くの宿根草の植え付けや植え替えの頃となります。さらにはパンジー、ワスレナグサ等秋播きの草花の播種、育苗管理、植え付け作業と秋は忙しい時期となります。

11月には、越冬の準備を始めます。下旬には寒さに弱い宿根草や秋播き草花にマルチ等で霜除け対策を講じます。12月に入ると宿根草の地上部が枯れてくるので、地際から刈り取り追肥を施用しておくと良いでしょう。

また、秋に植え付けた春花壇の降雪前の点検も重要です。特に排水が良いか確認して下さい。

４．まとめ

草花への人々の関心は年々高まり、地域の花壇作りもかなり高度なレベルに至りました。草花の種類・品種の増加、園芸資材の多様化さらには花の普及活動や関係図書が、花壇作りを一層魅力あるものにしています。

楽しい花壇作りは、誰にでも手軽に始められます。

草花を２～３株組み合わせてもミニ花壇になります。今、丁度、花壇作りのプランを練る時期です。年間を通した大まかな作業を理解して花壇を設計し、私だけのオリジナルの花壇を作ってみて下さい。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑯

職藝学院
教授　**渡邉　美保子**

クリスマスローズ（ガーデン・ハイブリッド）

冬の宿根草は、カラカラと音をたてて風に運ばれてきた落ち葉の布団に守られて過ごします。枯れた茎や葉ばかりになって誰からも見てもらえなくなった庭は、いつしか空から舞い降りてきた雪に綿帽子をかぶせてもらってすべてを隠してもらいます。こうして富山の宿根草は、雪の下で長い眠りにつくのです。こうなると、土を掘り返すことも、花を植えることもできません。指先が凍えるようになる頃には、もう何もしなくてよいのですと教えてくれます。安心しているのもほんのつかの間、寒さを合図につぼみを膨らませ始めている宿根草があります。冬に咲く花、クリスマスローズです（写真1）。

写真1：落葉樹の森の南側林縁を好むクリスマスローズ（ガーデン・ハイブリッド）。3月下旬。

クリスマスローズは、キンポウゲ科の寒さに強い丈夫な宿根草です。流通しているクリスマスローズは、交配種でガーデン・ハイブリッドと呼ばれています。花は2月頃から咲き始め、4月頃まで楽しめます。12月、地面を割って出てくるつぼみは（写真2）、雪解けとともに花茎を伸ばしはじめます。花は、クリーム色、赤紫、黒紫、花びらに斑点の入ったもの、フリルのあるもの、八重咲きなど、イギリスの熱狂的な育種家により、さまざまな色や花びらを持つクリスマスローズが作り出されてきました。

写真2：地際から顔を出したつぼみ。常緑の葉の葉柄は地面に倒れてくる。12月中旬。

この花の最大の特徴は、そう簡単に花の顔を見ることができないことかもしれません。なぜなら、花はまるで地面とおしゃべりをしているように、うつむき加減に咲くためです（写真3）。花の顔を眺めるには、ある作法が必要になります。まず、膝を折り曲げ、うずくまり、団子虫になったようなつもりで出来る限り小さく縮こまります。草丈が40cmほどですから、このときほど小人だったらと思うほどです。それから右手の人差し指だけを伸ばし残りの指はすべて折り曲げ、花の付け根のあたりに人差し指をそっと差し伸べ、ゆっくりと持ち上げます。この手順をふんで、ようやく花の顔を見ることができます。立ったまま花を見ようなんてもったいないことはやめましょう。園芸種のクリスマスローズには、今まで見たこともない花を作り出そうと夢を追い続けている育種家たちの物語がこめられているからです。

庭植えの場合は、落葉樹の木の下の東南側に植えることをおすすめします。落葉樹は、秋から早春にかけては葉っぱがないので、明るい日差しがクリスマスローズを暖めて花を咲かせてくれます。一方、花が終わり種を結ぶ5月頃には、落葉樹の葉が生い茂り、クリスマスローズを夏の暑い日差しから守ってくれます。水はけの良い肥沃な土を好みますので、植え付け前に完熟堆肥や腐葉土などをすきこみます。クリスマスローズの苗を購入する場合は、花茎がたくさん立ち上がっている大株を購入するとよいでしょう。花が咲き始める頃、前の年に伸びた葉が倒れて見苦しくなりますが、地際から切りとっても大丈夫です。新しい黄緑色のつややかな葉が再び地面から伸びてくるからです。組み合わせのポイントは、クリスマスローズの周りにレモン色のミニスイセンや、ビオラを植えると明るく華やかになります。

写真3：新しい黄緑色の葉が伸びた頃、前年の葉は枯れてゆく。4月中旬。

ステップアップ研修に参加して

花と緑の銀行滑川支店　山加積地方銀行
グリーンキーパー　**永田　由美子**

地区公民館に小さな花壇ができ、配布される花苗を植えています。しかし、生育が順調にいかず、美しい花壇にしたくて、基本から学ぼうとステップアップ研修の受講を希望しました。

４月開講式。５人のチームメイトができ、20単位の研修がスタートしました。各地で活躍されている人達ばかりで、講師の先生方だけでなく同じ班の方からも多くの話が聞けるとうれしく思いました。

まず、草花の生態、土づくり、花壇のデザイン等、花壇づくりの知識から始まり、pH測定器や試験紙を使って、花壇の土の状態を診断しました。私の持参した土は状態があまり良くなく、生育不良の一因だということが分かりました。花壇コンクールで何度も表彰されている花壇の土を拝見し、その質の良さに班の誰もが頷き、やはり土づくりが基本だと再認識させられました。

研修花壇のデザイン画作成も初めて体験でき、イメージを広げていく楽しさを覚えました。「あいの風花壇」として５月植栽の日を迎え、いよいよ、花壇研修が始まりました。

研修の日はとにかく花の様子が気になり、まず花壇へ。併行して花のまちづくりや栽培禁止の植物等の法律に関する講義もありました。順調に生育していた花壇でしたが、猛暑や台風のダメージを受けた花もあり、その都度、講師の岡田先生からメンテナンスの方法を教わりました。さらに、花を長く楽しむための切り戻しや追肥の方法について、手本を示しながら丁寧に教えていただきました。ほかの班の花壇で旺盛に生育しているイポメアがとても印象的で、これからの花壇づくりに良いヒントを得ることができました。

私達の花壇では、真っ赤なハゲイトウをどうしても使いたくて一番のアクセントにしたのですが、４ヶ月程度で種をつけ、葉を落としてしまったので撤去せざるを得ませんでした。淋しくなった花壇を眺め、生育期間をもっと吟味すべきだったと反省。他にも、もっと大きくなるはずだったコキア、もっと広がるはずだったトレニアなどなど・・・。でも、小形ながらコキアは最高の紅葉を見せてくれました。

豊かな土づくり、花がら摘みや除草、適度な水やり、適期の切り戻しと追肥など、日常の観察ときめ細かな手入れが、花の寿命を延ばし、美しい花を長く楽しませてくれることを、改めて学ばせて頂きました。

研修の一環として行われたコンテナガーデニング、「フローラルガーデンおぶせ」での現地研修や町並散策など、楽しい時間を共有することができ、チームの輪が一層深まったように感じました。

たくさんの事を学ばせてもらった研修花壇も、11月半ばに花を撤去し、腐葉土をすき込み、感謝をこめてふかふかに整地しました。

日常、お世話をしていただいたスタッフの皆さん、指導していただいた先生方、本当にありがとうございました。学んだことを地域で活かし、美しい花壇作りを楽しみたいと思います。

ステップアップ研修。楽しい先生方とふかふかの花壇が次の受講生を待っています。

平成26年度ステップアップ研修の受講を希望される方は、各支店(市町村担当課)までお問い合わせ下さい。
受講者の決定は３月下旬を予定しています。　※研修内容は「花壇管理の基礎」を中心に実施します。

花づくりによる人との輪

花と緑の銀行 朝日支店　泊三区地方銀行
グリーンキーパー　**湯上谷　祐子**

泊地区は一区、二区、三区から成り立っており、ＪＲ泊駅やあさひ総合病院、特別養護老人ホームなどの多数の公共施設の花壇整備を各区の頭取とグリーンキーパーの13名で取り組んでおります。

私はお花が好きで自宅でたくさんのお花を育てていたところ、当時の頭取から声をかけていただき、平成15年度より泊三区のグリーンキーパーとして、ＪＲ泊駅前の花壇と駅のホームの花壇を中心に、地域の環境整備や緑化活動に精を出しております。

今年の夏は大変暑かったこともあり、日が昇る前の薄明るいときにほぼ毎日、泊駅へ行ってお花に水やりを行いました。水やりや草むしり、花柄摘みなどの手間をかけると、その分元気がよくきれいな花が咲いてくれることが楽しみです。また、駅の近所の方や電車通勤・通学される方から「駅の花壇きれいだね」と言っていただけることが嬉しく、私たちの励みとなっております。

その他にも、グリーンキーパーになる以前より佐味野園芸という泊地区内の女性グループに所属しており、地区内の特別養護老人ホームや地元小学校前の道路の草むしり等の緑化推進活動を、月に一回程度行っております。

これらの活動を通じて、たくさんの花好きな方々との輪を広めることができたのは、私のひとつの貴重な財産です。

これからも、皆でコミュニケーションをはかりながらよりよい花作りを進めていき、笑顔溢れる潤いに満ちた地域づくりの一翼を担っていけたらと思っています。

〈情報コーナー〉

「花とみどり・ふれあいフェア」を開催します

３月１日～２日（10時～17時）に**ファボーレ**において、**『待ちきれない、春！』**をキャッチフレーズに、**花と緑の銀行40周年記念「花とみどり・ふれあいフェア」**を開催します。

◎主な内容

- **春を彩る花々「チューリップ、スイセン、椿」の展示**
- **花と緑の体験コーナー**（寄せ植え、フラワーアレンジメントなどの体験）
- **コンテナガーデンコンテスト**（庭先や玄関を花と緑で飾る方法の提案）
- **「わたしの寄せ植え」展**（花と緑で素敵な空間を創造）
- **花と緑のコンクール入賞作品展示**（入賞ポスター、標語、花壇写真など）

　展示期間：２月22日～３月２日

- **花のタネ・根の無料貸し出し**（県内各地から提供されたタネ・根の提供）

など、盛りだくさんの企画を準備しています。多数のご来場をお待ちしています。

平成24年 フラワーアレンジメント教室風景

平成24年コンテナガーデンコンテスト

平成24年 花のタネ・根の無料貸し出し風景

表紙写真：作品名「満開の頃」　撮影者：吉田　毅 氏　撮影場所：城山公園（小矢部市）
裏表紙写真：「雪中のナメコ」：（2012年1月　上市町にて）･･･写真提供　長谷川幹夫 氏

「雪中のナメコ」（2012年1月　上市町にて）

花と緑の銀行だより　190号
発　行　日　平成26年1月
編 集 発 行　公益財団法人　花と緑の銀行
〒939-2713　富山県富山市婦中町上轡田42
TEL　076-466-2425
FAX　076-465-5923
ホームページアドレス　http://www.bgtym.org/fgbank/

富山県中央植物園
〒939-2713　富山県富山市婦中町上轡田42
TEL　076-466-4187
FAX　076-465-5923
ホームページアドレス　http://www.bgtym.org/

県民公園頼成の森
〒939-1431　富山県砺波市頼成156
TEL　0763-37-1540
FAX　0763-37-1450
ホームページアドレス　http://www.bgtym.org/ranjyounomori/

再生紙を使用しています。